

止血法 … 大出血した時の応急手当

はじめに

私達の身体の中には成人で体重の約8%の血液が流れています。(体重60kgで約5l)

一般的に体内の血液の20%が急速に失われると出血性ショックという状態になり

30%を失えば生命に危険を及ぼすといわれています。

そのため大出血をしている時は素早く止血をしなければいけません。

出血の種類

■ 出血には大きく分けて3つの種類があります。

- ・ **動脈性出血** … 鮮やかな赤色をした血がドクドク流れ出たり、脈打つように噴き出します。
- ・ **静脈性出血** … 暗い赤色をした血がジワジワと湧き出てきます。
- ・ **毛細血管性出血** … ちょっとしたケガをした時ににじみ出て来るような出血です。

※ この3つのうち特に動脈性出血は大量の出血をするので素早い止血が必要です!

直接圧迫止血

■ 直接圧迫止血とは、出血部位を直接圧迫して止血する方法です。
この方法でほとんどの出血を止める事ができます。

○ 方法



◆ 直接圧迫止血を行う時は、血液に直接触れないようにしましょう。

スーパーの袋やビニール手袋などがあれば活用し、感染予防に努めて下さい。

◆ きれいなガーゼや布で出血部位を強く押さえます。包帯があれば強く巻きつけます。
この時、圧迫しているガーゼや包帯が血で濡れ出したら圧迫が不十分な証拠です。
濡れたガーゼや包帯を新しいものに取り替えてさらに強く押さえつけましょう。

◆ 傷口を心臓よりも高く上げると効果的ですが、出来なければ無理にする必要はありません。